さいたま赤十字病院 院外報

かがやき

Vol.38
平成 27 年度
4 号

平成 28 年もよろしくお願いいたします

院 長 **加藤 泰一**

今年は 4 月に診療報酬(医療保険から医療機関に支払われる治療費)の改定が行われるなど、医療介護の方向性が決って行く大事な年になっております。団塊の世代がすべて 75 歳以上になる 2025 年を見すえて、現在、国で医療計画が立てられています。その中で当院は、高度急性期の病院（緊急に治療が必要な状態である患者さんに対して、入院や手術、検査などの高度で専門的な医療を行う病院）に位置付けられており、さいたま市を中心とした医療に、どれだけ積極的に取り組んでいるのかを求められています。

● 今後も入院患者さんを中心とした診療を、外来は専門的な診療を目指しています。

来年 1 月に診療をスタートする新病院では、患者さんの療養環境が格段に改善します。診療面では、現在の救急センターから高度救命救急センターを目指し、また県立小児医療センターと総合周産期母子医療センターを運営する予定です。がん・高齢者に多い疾患の患者さんが増えることを想定して診療機能の充実を計ります。救急医療では、当院は市内では、最も多くの救急車を受け入れて参りましたが、市内の救急搬送患者数は年々増加しており、救急車の受け入れも限界に近付いております。そのため当院では、救急患者さんの受け入れ方法を現在見直しています。

新病院外観イメージ

これからの医療提供体制では、病院間の役割分担が求められ、ひとつの病院で診療が完結することがなくなります。高度急性期から慢性期（全身状態は安定しているが、継続的な治療が必要なため長期入院をする患者さん）までの病院が各々役割を果し、また在宅療養を支える開業医の先生方との連携が重要になります。そのために、患者さんの診療情報を的確に他の医療機関に送り、また他の医療機関から患者さんを受ける時は必要な医療情報を求めていきます。

最後になりますが、新病院は今年 8 月に竣工を迎え、来年 1 月には新病院の開院を迎えます。移転までに 1 年を切りました。現病院そして新病院でも職員全員が患者さんに納得が行く診療が提案できるよう努力してまいります。

日本赤十字社 Japanese Red Cross Society さいたま赤十字病院

腎臓内科
じんぞうないか

蛋白尿や腎機能低下が3カ月以上続けば、慢性腎臓病です

部長
雨宮 守正

新聞にも取り上げられていますが、慢性腎臓病は成人日本人の約8％が罹患していると言われています。そしてその行き先には腎機能が廃絶し、透析を受けなくては生きていけない運命を持つ方が大勢含まれています。また、透析になる以前に心臓病や脳血管病で命を落とす人の方が、多く含まれていることもわかっています。慢性腎臓病の予防は、透析の予防のみならず、心臓や脳血管病の予防にもつながるのです。

●埼玉県の透析状況

透析患者さんは、日本人の約４００人に一人。埼玉県では約 16,500 人が人工透析を受けており、年々増加しています。

●早期の対処が大切です

そんな慢性腎臓病ですが、初期のうちは症状に乏しく、健康診断で指摘されたり、“かかりつけ医”の先生に指摘を受けることの多い疾患です。そして、生活習慣病と関係が深く、早期のうちに適切な注意を心がければ、その進展を止めたり遅らせたりすることも十分に可能です。

●生活習慣病って

ここで言う生活習慣病とは、高血圧・糖尿病・高脂血症・メタボリック症候群などが含まれます。また加齢・喫煙・心血管疾患の既往も慢性腎臓病の危険因子です。

●地域で守る、市民の腎臓

慢性腎臓病の患者さんは多いため、とても当院だけでは診きれるものではありません。そしてもちろん生活習慣病の予防は、地域の先生の最も得意とする分野です。地域の先生方の医療に、我々腎臓専門医の力が加われば、埼玉県の透析患者さんや心臓血管病で亡くなる人を減らすことが必ずできます。そこで当院では地域の先生方との関係を密にして、慢性腎臓病の対策に努めています。

当院を受診するために

健康診断で尿蛋白や腎臓機能低下を指摘されたら、“かかりつけ医”に相談して下さい。かかりつけ医の先生は、必要性を検討した上で、これまでの経過を記入した紹介状を記載し、当院に紹介してくれるはずです。

当院での慢性腎臓病対策

当院では、現在の腎臓の状態について検査を行い、今後の治療方針につき検討します。そして、病状が落ち着いていれば、“かかりつけ医”に逆紹介し、地域における慢性腎臓病対策が開始されます。また、“かかりつけ医”ではなかなかできない栄養士による栄養指導や慢性腎臓病についての知識を身につける腎臓病教室なども当院では開催中です。

よろしければ、地域で守る慢性腎臓病対策に参加してみては、いかがでしょうか？

口腔外科
こうくうげか

部長
生田 稔

お口の問題はぜひご相談ください

昨年 10 月より赴任いたしました、生田と申します。大学では口腔癌を専門としておりましたが、関連病院では顎顔面外傷も多く治療してきました。もともと当科は 2013 年度から新規に設置され、今まで非常勤医の体制だったので馴染みがないと思いますが、今後、新病院に向けて自分の経験を生かし、充実した診療体系を整えて、地域に貢献したく思っております。どうぞよろしくお願いいたします。

●口腔外科とは

口腔疾患や歯科疾患の中でも、一般の歯科医院で手に負えない症例を一手に扱う科であり、下記の疾患を扱っております。なお、う蝕、歯周病、義歯の治療は、入院中の患者さんには応急処置で対応しておりますが、一般歯科医院での治療が最善であり、外来では行っておりませんのでご了承ください。

抜歯

親知らずだけでなく、全身疾患がある方の普通抜歯も行っています。

レントゲンで形態把握の難しい歯は、歯科用ＣＴで解析して安全な手術計画をします。

また、困難が予想される抜歯などでは、静脈内鎮静下や入院管理下でも実施いたします。

外傷（歯の脱臼・破折、顎骨骨折）

転倒、交通事故などでの顔面から口の中に及ぶ粘膜の外傷、歯の打撲・脱臼、顎の骨折の治療をします。顔面多発骨折は形成外科と連携して対応していきます。

嚢胞（顎骨嚢胞、唾液腺粘液嚢胞）

はっきりした自覚症状がないため発見されにくい病気ですが、当院では歯科用 CT で早期の診断治療を行っていきます。

腫瘍（顎骨腫瘍・口腔腫瘍）

口の中の“できもの”に対して、確実な診断をして治療していきます。がんは、舌に多発し他の口腔粘膜にもできるものです。早期発見・治療が重要です。

形態異常（唇顎口蓋裂、顎変形症など）

特殊な専門手術の為、大学の専門医と連携して対応していきます。

口内炎・口腔粘膜疾患（扁平苔癬、白板症など）

歯の感染から頸部に及ぶ炎症や、治りにくい難病や口腔癌になる前の病変とさまざまな粘膜変化があります。早期の対応が望まれます。

顎関節症（クローズドロック・関節円板転位など）

関節に音が鳴る・痛みがある・口が開かないといった症状があれば、適宜リハビリを含めた治療を行っていきます。

口腔乾燥症（シェーグレン症候群など）

基礎疾患からおこる乾燥症から、難病に関連する病気もあり必要に応じて精査・治療していきます。

口腔ケア

口腔内の感染が全身に及ぼすリスクが注目されており、感染・誤嚥性肺炎の予防に貢献できるよう、心臓血管外科手術・癌の手術・化学療法中の入院患者さんに周術期口腔機能管理を行っております。

インプラント治療

多くは外傷や腫瘍の治療後で歯を失った部分に機能を回復する治療を目指します。インプラント上の義歯やかぶせ物の対応は連携歯科医院にサポートしていただきます。新病院からの治療提供体制の予定です。

口の中・顎・そこから及ぶ顔の問題点は多岐にわたり、多くの患者さんに潜んでおります。ご不明なことがあれば、ぜひともご相談ください。

認定看護師

乳がん看護認定看護師の紹介

乳がん患者さんとご家族が
安心して治療を受けられるよう、
気持ちに寄り添った支援を心がけています

乳がん看護認定看護師
宮入 育子

現在日本で乳がんと診断される方は年間７万人、女性の部位別罹患率は１位で年々増加傾向にあります。罹患率は 30 代から増加して、40 歳代後半から 50 歳代に多く、この年代の女性は、仕事・育児・介護など重要な役割を担っているためその影響は計り知れません。また乳がんの治療は、手術療法・化学療法・内分泌療法・放射線療法と多岐に渡っており、その治療期間は長く続くため、乳がん患者さんとご家族は疾患や治療への様々な不安を抱えながら生活を送ることを強いられます。乳がん看護認定看護師は早期発見への啓発、診断から治療選択、治療に伴うセルフケア支援、ボディイメージの変容への支援、リンパ浮腫への対応、緩和、終末期までにわたり適切な情報提供と支援を行いながらトータルサポートしていくことを役割としています。つまり一定の時期だけに関わるのではなく、診断時から終末期までずっと患者さんやご家族のサポートを行います。

私は 2010 年に資格を取得後、2011 年に当院に入職し、現在は外科外来において医師や病棟、がん看護関連認定看護師、他部署と情報を共有しながら乳がん患者さんとご家族へのサポートを行っています。当院の乳腺外科は他院からの紹介で乳がんを前提に受診される方も多く「覚悟してきました」といった声も聞かれますが、実際に乳がんと確定診断されると強い衝撃を受け悲嘆にくれる患者さんも多々みられます。なかには治療選択や、今後の生活を考えていかなければならないものの、家族背景が複雑で十分な支援が得られなかったり、告知の衝撃で混乱し、そこまで考えがまわらない患者さんもいらっしゃいます。そのような患者さんやご家族が安心して治療を受けられるために適切に看護師が介入し支援を行う必要があるため、個別の乳がん患者看護相談を開始しました。相談内容は治療選択への意思決定支援、補整や再建、治療に伴う脱毛などのセルフケア支援、家事・育児・仕事、妊娠・出産など多岐に渡っており、患者さんは継続的な支援を希望される場合がほとんどです。今後は看護外来として更に充実した支援を行っていきたいと考えています。

また近年乳がんは治療が多様化・高度化してチーム医療がより重要となっているため、多職種カンファレンスへの参加や病棟での多職種回診への同行など積極的に多職種とかかわり情報交換も行っております。

今後は乳がん治療の大半を占める外来看護の充実を図るとともに、患者さんやご家族が安心して治療を受けられるよう組織横断的に活動し継続看護を続けていきたいと思っています。

皆さん

検査部コラム

糖尿病という病気をよく御存じでしょうか？

厚生労働省の2014年調査によると、糖尿病が強く疑われる人の割合は、男性で15.5%、女性で9.8%であり、2006年調査に比べ増加し、特に70歳以上では男性の4人に1人（22.3%）、女性の6人に1人（17.0%）が糖尿病とみられると報告されています。このように糖尿病は患者数が増加していてよく耳にする病気ですが、詳しく知らない方が多いのではないでしょうか？

●糖尿病とは

糖尿病とは、血糖値を下げるホルモン（インスリン）の分泌が少なくなったり、その効きめが悪くなる事により慢性的に高血糖状態となり、それが原因で起きるすべての症状の事をいいます。一般的な症状（合併症）としては、神経障害、網膜症、腎症があり、それぞれ重症になると神経障害は足の切断、網膜症は失明、腎症は人工透析になってしまいます。また糖尿病は全身の血管に障害を与えるので、脳梗塞、脳出血、心筋梗塞、白内障、認知症等にもなりやすい事がわかっています。

●早期発見と治療の継続が大切です

糖尿病は、血糖値とヘモグロビンA1c（過去1～2ヶ月の平均血糖値を表す検査項目）という検査で診断され、採血しないと見つからない病気です。糖尿病の初期は症状がほとんど分からない為に、知らない間に合併症になってしまう事が多く、定期的な検査が必要です。また糖尿病は治療しないままでいるとどんどん合併症が進み、生活にさまざまな支障がでてくるので治療の継続が大切です。たとえ糖尿病と診断されても、慢性的に高血糖にならなければ合併症は起きないので、血糖コントロールがきちんとできれば今までの生活を続ける事ができます。

●『かんたん糖尿病講座』を実施中！

当院では、糖尿病専門医を中心とし糖尿病認定看護師、糖尿病療養指導士、薬剤師、管理栄養士、臨床検査技師によるチーム：DCST（糖尿病療養サポートチーム）により、『かんたん糖尿病講座』という講義を年24回行っています。臨床検査技師は「ヘモグロビンA1cって何？～知ってほしい糖尿病の検査～」という内容で糖尿病と検査についてなるべく分かりやすく説明を行っています。受講は無料で、申し込みは当病院の予約センターで受け付けています。皆さんの受講をお待ちしています。

さて、これを読んで血糖値が気になった方、近親者に糖尿病の患者がいる方は、健康診断をきちんと受けるか、そうでない場合はかかりつけ医院での検査を1年に一度お勧めします。

臨床検査技師 **橋爪 英文**

メリー MERRY クリスマス CHRISTMAS コンサート

「クリスマスコンサート」を開催しました

当院では、「病気やけがと闘っている患者さんにとっての励みになれば」という思いを込めて、定期的に院内コンサートを催しております。

その中でも、毎年12月に開催している「クリスマスコンサート」は、医療サービス検討委員会と医療社会事業部のスタッフにより、本館5階の講堂をクリスマス・リースやクリスマス・モールなどで色鮮やかに装飾しコンサート会場に仕立て、患者さんを招待する一大イベントです。

今年度も、去る12月9日（水）、茨城県つくばみらい市を中心に音楽教室などを展開している「Shizaki Music Space」の皆様9名を迎え、盛大に開催しました。「Shizaki Music Space」は、宝塚歌劇団宙組の出身である紫咲大佳（しざきひろか）さんが代表講師を務めていることから、宝塚歌劇団の曲はもちろんのこと、ミュージカル、ディズニー、オペラから、誰もが聞き馴染みのある曲まで、様々なジャンルの名曲12曲が演奏されました。華やかな歌やダンス、衣装、小道具など、すべてがクリスマスムードに演出され、師走の午後、夢のような空間を楽しんでいただきました。

当日の主な演奏プログラム

- ★すみれの花咲く頃（宝塚歌劇団より）
- ★クリスマスソングメドレー
  きよしこの夜～ジングルベル～サンタが街にやってくる
- ★Tomorrow（ミュージカル『アニー』より）
- ★見上げてごらん夜の星を（坂本九の名曲より）
- ★輝く未来（ディズニー『ラプンツェル』より）
- ★いのちの歌（NHK 連続テレビ小説『だんだん』より）　など

患者さんから、たくさんの「ありがとう」の声

会場にお越しいただいた患者さんから
「病院の中でクリスマス気分を味わい、明るい気持ちになれた」
「素晴らしい歌声に元気をもらった」
などの声が多数寄せられました。
患者さんには、病院での時間を少しでも明るい気持ちで過ごしていただけるよう、これからも病院スタッフ一同、こころの支えとなるよう努めてまいります。

一般社団法人 埼玉県トラック協会より 救護車両寄贈

平成 28 年 4 月 1 日より 運用開始

平成 28 年 2 月 4 日（木）に、一般社団法人・埼玉県トラック協会のご厚意により、埼玉県特別機動援助隊（埼玉 SMART）の活動に使用する車輌として、日産 X-TRAIL が当院に寄贈されました。

この車輌につきましては、埼玉県内で自動車多重衝突事故等の大規模災害等が発生した際に、災害現場へ迅速に出動することで、災害救助が必要とされる方々への救命処置を行うことを目的とした、緊急車輌として寄贈されました。

当院は、災害拠点病院として、埼玉県特別機動援助隊（埼玉 SMART）に所属しており、埼玉県災害派遣医療チーム（埼玉 DMAT）として災害救護活動を行っております。

また、この車輌はドクターカーとしても併用するため、サイレン・赤色灯を装備しており、医療材料、医療器材、医薬品など、救命処置に必要な備品を車内に搭載します。ドクターカーの導入にあたっては、以前より埼玉県保健医療部保健医療政策課と埼玉県中央地域メディカルコントロール協議会及び当院で運用に向けた検討を行っておりました。

当院では、さいたま市消防局、上尾市消防本部、伊奈町消防本部、埼玉県央広域消防本部より、救命処置の必要な救急患者が発生し、ドクターカー出動要請があった場合に、救命救急センターの医師、看護師が同乗のうえ、救急現場や走行中の救急車に合流することにより、医療行為を行うことができます。
現在、平成 28 年 4 月 1 日からの運用開始に向け、関係機関及び団体との調整を行なっております。

地域住民の救命率の向上や後遺症の軽減を

今回、一般社団法人埼玉県トラック協会より寄贈された車輌の運用が開始することにより、地域住民の救命率の向上や後遺症の軽減を図ることを目指し、今後も地域のニーズに即した医療事業を展開していきます。

脳卒中予防の 啓蒙川柳

最優秀作品のご案内

平成二十七年十月二十五日（日）に開催した、さいたま赤十字病院市民公開講座「脳卒中！その時どうなる？どうする？」で募集した川柳の中で、最も優れた作品を紹介します。

突然の
脳卒中に
あわてない

（ペンネーム　マロン）

患者さんの声にお答えします。

ご意見

眼科で使用している眼圧測定器について、患者の目に触れる部分は使用毎に消毒していますか？先生は手指消毒はしていますか？

お答えします

貴重なご意見を頂きありがとうございます。器機の消毒、手指衛生は院内のルールに則って行っています。しかし、徹底出来ていない職員には指導を行うようにいたします。

ご意見

レストランの従業員がマスクもしていないで、食べ物の前でおしゃべりをしているが衛生的に大丈夫ですか。

お答えします

ご指摘を頂き有り難うございます。厨房で作業する従業員はマスクを着用することとしました。

さいたま赤十字病院の理念

赤十字の人道・博愛の精神に基づき、信頼される医療をおこないます。

さいたま赤十字病院の基本方針

1. 患者さんの権利を尊重します。
2. 地域との円滑な医療連携に努めます。
3. 医療の質の向上に努め、安全な医療を提供します。
4. 優れた医療人の育成に努めます。
5. 国内及び国外での医療救援活動に積極的に参加します。

患者さんの権利

1. 公平で適切な医療を受ける権利
2. 個人の尊厳が保たれ、人権を尊重される権利
3. プライバシーが守られ、個人情報が保護される権利
4. わかりやすい言葉で検査や治療などの説明を受ける権利
5. 自己の決定権が確認され、医療行為を選択する権利
6. 安全・安心な医療を受ける権利
7. 他施設の医師の意見（セカンドオピニオン）を聞く権利
8. 自己の診療記録等の開示を求める権利

患者さんに守っていただく事項

1. 健康に関する情報を医師や看護師等にお知らせください。
2. 医療行為については、納得したうえで指示に従ってお受けください。
3. 病院内ではルールを守り、他の人に迷惑にならないように行動してください。
4. 診療費の支払い請求を受けた時は、速やかにお支払いください。

発行：**さいたま赤十字病院**
〒338-8553 埼玉県さいたま市中央区上落合 8-3-33
TEL 048-852-1111（代表）
編集：広報委員会
ホームページ http://www.saitama-med.jrc.or.jp/